

# 山口 逸彩人

やまぐちいさいびと  
yamaguchi isaibito

きらり輝く  
山口の



[山口逸彩人]

ときつ養蜂園 Bee's Life 代表 時津 佳徳さん

生命の神秘と息吹を感じる毎日

[column] はちみつ農家のレシピ  
Lisa's Photo Gallery

vol. 04

yamaguchi isaibito  
2020. SUMMER

## 山口逸彩人

やまぐちいさびと

## 生命の神秘と息吹を感じる毎日

こまつ養蜂園 Bee's Life 代表 ● 時津 佳徳さん



**山口** 口市に住み養蜂業を営んでいる時津佳徳さんは、完全無農薬をモットーに、愛情をたっぷり注いでミツバチを育てています。心を込めて育てられたミツバチから採れる蜂蜜「郷のはちみつ」は、純度が高く濃密な花の香りが口いっぱい広がる、希少な高級蜂蜜として全国で人気が高まりつつあるそうです。

自然と共に生き、ミツバチに寄り添う時津さんと、ハチたちとの交流が紡ぐ不思議な世界を、ちよつと覗いてみましょう。

### 農業は楽しく尊いもの―養蜂を柱にした農業を

―養蜂業を始めようと思ったきっかけは何ですか。

**時津** 大学時代に、F F C 農業を提唱している(株)赤塚の植物園に視察に行き、赤塚会長の講演を聴きました。その講話内容に非常に感銘を受け、自分もF F Cの技術で農業をしたいと思うようになりました。それが有機農業を目指す、全てのきっかけになったのです。

大学院を卒業後、一旦は警察官になったのですが、農業に従事するために親の反対を押し切って、1年で辞めました。そして昼間は農業を学ぶためにJ Aでアルバイトをしながら、夜は塾講師の仕事に就きました。

―就農という目標に向かって、できることから準備を始められたのですね。

**時津** 私の祖父は山口市で農業を営んでいたのですが、その祖父の知り合いの農家さんに誘われて、仁保の営農組合でアルバイトをするようになりました。その時に、農業とはこんなに楽しく尊いものなのか、と身を持って知りました。そして、多くの農家の方たちと触れ合ううちに、自分ももっと発展した農業経営をしたいと思いました。

―未来を見据えた農業経営、というわけですね。

**時津** 警察を辞めた後34歳の時に、悪性リンパ腫を発症しました。自分ががんになった原因を考えて、食生活を見直し、今後がんにならないようにするために、どうしたら良いのかを、闘病中に考えました。そのことも、有機農業に向けて具体的に動き出すきっかけとなったといえます。手術後、抗がん剤治療で入院している時に、目標達成の構想を練るために、毎日病院から外出し、農業に関する様々な本を読み、映画などを観てイメージトレーニングをしました。その結果、認定就農者になって、養蜂を柱とした専門農家になることに決め



ました。小学生の頃、ミツバチを飼っていた祖父から「ハチはいいぞ」と言われたことが頭に残っていたことも、原因の一つかも知れませぬ。

―退院後は、就農に向けて具体的に動き始められたわけですか。

―時津さんの蜂蜜は高級と謳われていますが、その理由は。  
**時津** 完全無農薬で育てている健康なミツバチが運んでくれた、純粋な蜂蜜そのものだからです。巣箱から取り出して漉した蜂蜜を、何も手を加えないまま瓶詰めした、安心安全で美味しく、自信を持っておすすめできる蜂蜜です。

―完全無農薬で育てるのは、手がかかって大変でしょうね。

**時津** 確かに手間ひまがかかりますが、人間の勝手で商品としての見た目を良くするために、農薬を使用して自然を死滅させる日本の農業に疑問と抵抗を感じたので、完全無農薬に徹しています。

うちは、ミツバチ特有の病気を予防するための抗生物質、ミツバチにつきもののダニを駆除するための化学系薬剤を一切使用していません。こまめにハチの状態を観察し、ダニを見つけたら手で取り除きます。

また周囲の田んぼや果樹園に農薬が散布される時には、前もってハチたちを安全な場所に移動させます。巣箱を持って移動するのは重労働ですが、農薬からハチたちを守るためには、大切なことなので手は抜きません。

ヘリコプターで空中から散布する農薬は、広範囲に降りかかりますし、田んぼの水に農薬が入ってしまいます。水が大好きなハチは田んぼの水をよく飲むのですが、それに農薬が入っていたら、ハチはすぐに死んでしまいます。

うちでは動植物の健康と環境に優しいFFC活性水を飲み水として与え、暑い日にはシャワーで降りかけてやります。そのようにして、自分たちの目でしっかりとハチを観察して、心を込めて、手をかけて育てています。手はかかるけど、それだけの価値はあると思っています。

## 神の力を実感し、生命の神秘を感じる毎日

——ミツバチたちへの愛情が伝わってきます。

**時津** 愛情を持って接すれば、ハチたちはそれに応えてくれます。私が養蜂場に行くと、ハチたちが喜んでるのがわかります。「元氣か？」などと話しかけると、私の周りを飛び回って返事をしてくれます。機嫌が良いとか、今日はちょっと反抗的だな、とかダイレクトにハチの気持ちが伝わってきて、楽しくなりますね。

うちのハチたちはとても優しく、刺されることはほとんどありませんよ。巣箱も素手でさわっているのですが、他の養蜂家さんたちも驚かれます。

私たちが棲むストレスの多い人間界とは関係なく、自然の中で懸命に生きて働いているハチたちの姿を見ると、とても可愛く愛おしく、心が和み癒やされ、ハチたちが飛び音に大きなパワーをもらっています。ハチたちのように、自然の中で、人間としての本来の生き方が取り戻せれば良いのですが…。

——ハチと共存されているんですね。

**時津** ミツバチの命が、人々の健康と地球の未来に繋がっているというのが、



うちの蜂蜜の品質の良さをわかっていただけて、多くの芸能人や健康志向の方々に愛用していただいています。ネット通販や卸事業も徐々に伸びています。でも、もっとシェアを増やし、真に純粋で良質な蜂蜜を広めていきたいと思っています。

——養蜂家としても、活動の幅を広げられているようですが。

**時津** 現在は山口県養蜂協会副会長を務めており、日本養蜂協会、日本養蜂成年部会のメンバーとしても活動しています。全国の会議に参加すると、皆さんが持っている知識を出し惜しみせずに教えてくださるので、気づきや学びが多く、とても有意義な気持ちになって帰ってくる事ができます。

私の考えです。毎日ハチたちと戯れていると、何か目に見えない大きな力、人智を超えた神の力によって私たちは生かされていることを実感し、生命の息吹と神秘を感じています。

——養蜂業を始めて良かったですか。

**時津** はい。私の生きる道はこの道だと確信しています。このために今まで生きてきたのだと、心から思います。浪人と留年をして、大学と大学院卒業まで人の倍以上時間がかかり、他の職業にも就き、がん患者でもありましたが、それらの経験があったからこそ、今の道にたどり着けたという感じですね。

——全てが必要不可欠な経験だったということですね。

**時津** そうですね。私は大学で理数系を学びました。数学的思考力は、論理的な説明をするのに役立ちます。そして人の心をつかむことができ、応用が利いて全てに通じます。

知らず知らずのうちに数学的思考力が身につけていた私は、あらゆる場面ですらそれを痛感し、数学の勉強をして良かったと思えました。大学の恩師から「数学はどんな世界にも通じる素晴らしい学問だ。必ず役に立つ」と言われたことを、今だからこそ理解できます。

## ミツバチの大切さを伝えていくことが使命

——東京を初めとして、シェアが全国に拡大しているようですが。

**時津** オファーをいただき、東京でのイベントに何度か出展したおかげで、



す。意識の高い養蜂家さんたちとおつき合いをすることによって、自分も高められているような気がしていますね。

——今後の目標は。

**時津** 仲間を増やして、完全な有機農業を世界レベルに広げることです。そのためにはまず、地道に地元から仲間を増やしていくなくては。

地球上の植物が生きていくためには、ミツバチが必要です。ミツバチがいないと、実がなりません。ミツバチの大切さを伝えていくのが、私の使命だと思います。

## profile



時津 佳徳さん

ときつ養蜂園 Bee's Life代表。福岡県小都市出身。山口大学理科学部数理解理学科卒業後、山口大学院理工学研究科卒業。大学の少林寺拳法部後輩である妻の志帆さんとは、がん闘病中に知り合い結婚。その後養蜂業を始め、二人三脚でここまで歩んできた。豊かな自然の中にある母方の祖父の家をリフォームして、ショップ兼事務所兼作業場兼住居としている。清潔なショップ内には、蜂蜜の甘い香りが漂う。巣箱を設置している養蜂場は、山口県内に7ヶ所。ハチが活動休止する越冬時期は、タケノコを生産し、東京の高級料亭などに卸している。

[ ときつ養蜂園 Bee's Life ・ HONEY'S KITCHEN ]

山口県山口市仁保下郷561-1  
tel.083-929-1688 (mobile.090-8717-3388) fax.083-929-1364  
mail:bees-life@outlook.jp URL:bees-life.net

逸彩人 [いさいびと]

# 山口逸彩人

人は誰でも「きらり」と光るものを持っています。

その「きらり」を發揮することによって

人は異彩を放ち、逸材となり、輝きを増していきます。

そのような意味を込めて、逸材であり異彩を放つ人を

「逸彩人」と名付けました。

山口の多くの「逸彩人」の「きらり」に

スポットライトを当てて

皆さまにお届けしていきます。